

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年11月5日（月）～平成30年11月11日（日）〔平成30年第45週〕の感染症発生状況

第45週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 伝染性紅斑でした。

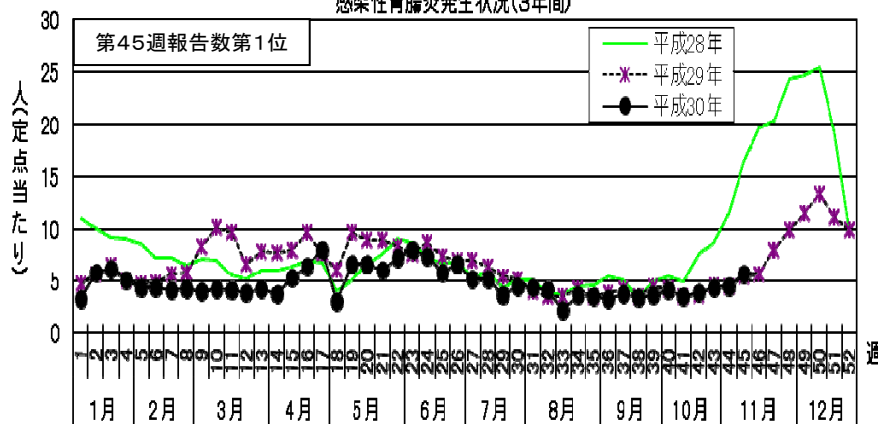
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.65人と前週（4.38人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は4.38人と前週（2.51人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。

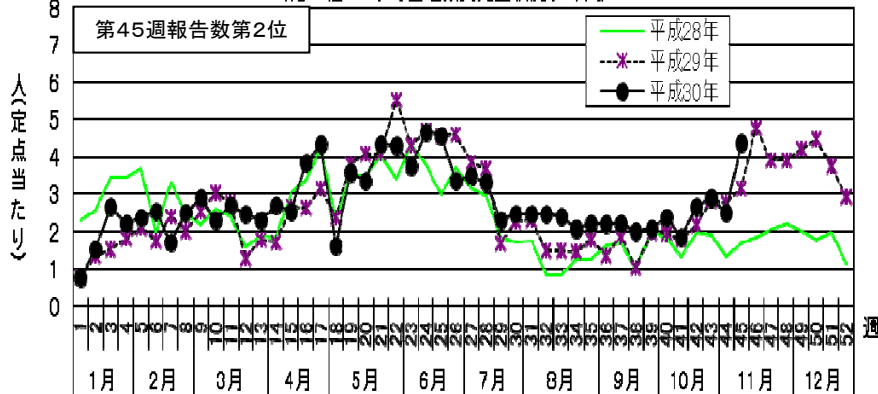
伝染性紅斑の定点当たり患者報告数は1.84人と前週（1.32人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



感染性胃腸炎の患者報告数が増えました！

感染性胃腸炎は細菌やウイルス等を原因とし、嘔気・嘔吐、下痢、腹痛等を主症状とする感染症です。毎年、秋から冬にかけて流行し、12月にピークを迎えます。

川崎市では、平成30年第45週（11月5日～11月11日）の定点当たり患者報告数が5.65人となり、例年と比べると流行の始まりはやや遅いですが、4週続けて患者報告数が増加しました。

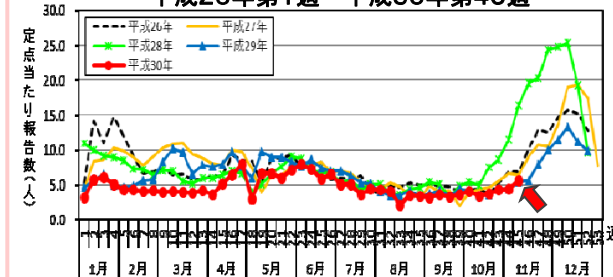
手洗いや嘔吐物・便の適切な処理等の予防対策を徹底し、感染性胃腸炎に「感染しない・感染させない」ための心がけが大切です。

感染予防・感染拡大防止のポイント

- ◆ 食事や調理の前、トイレの後等は、必ず手を洗う。
- ◆ 下痢や嘔吐などの症状がある場合は、食品を直接取り扱う作業は控える。
- ◆ 貝類や肉類は中心部まで十分加熱する。（85℃～90℃で90秒以上）
- ◆ 調理器具は使用后、洗って熱湯消毒する。
- ◆ 嘔吐物や便は、次亜塩素酸ナトリウムを利用し、適切に処理する。

特に子どもや高齢者などの抵抗力の弱い方は、重症化する場合もあるため、予防対策を徹底しましょう。

川崎市における感染性胃腸炎発生状況
—平成26年第1週～平成30年第45週—



「ノロウイルス食中毒警戒情報」発令中！

神奈川県において、感染性胃腸炎の患者報告数が3週連続して増加したことから、平成30年11月12日（月）にノロウイルス食中毒警戒情報が発令されました。